

ひょうたん島通信

大槌発! 第26回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬萊島ほうらいじまという小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。



大槌町で変わらないもの

佐藤 光展 大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター事務室係長

大槌町内では、現在、盛土工事が行われています。

この4月から大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターに着任しました佐藤光展（みつのぶ）と申します。よろしくお願いいたします。

3月までは、岩手県盛岡市にある岩手大学工学部に勤務しておりました。実は、大槌での勤務は今回で2度目になります。以前、海洋研究所附属大槌臨海研究センターという名称だった頃のことですが、昭和61年4月から平成8年3月まで10年間お世話になりました。

その後震災があり、皆さんご存知のことと思いますが岩手県大槌町にある国際沿岸海洋研究センターでは甚大な被害を受けました。現在は3階部分が仮復旧され活動も再開されていますが、機能的に充分とはいえず、教員や学生においては千葉県柏市にある大気海洋研究所と大槌との往来を余儀なくされています。

また、震災によって、国際沿岸海洋研究センターはもちろんですが、町自体が大きく変わりました。現在、被害を受けた地区のあちこちで、盛土が行われており、工事車両もひっきりなしに往来しています。

一方、山・川の形や雰囲気については、昔から変わらないように感じます。高台移転で、山の切崩しが行われている部分もありますが、大体において、昔の面影を感じます。もう一つ、昔から変わらないのが「愛の鐘」です。午前6時には「わ



れは海の子」が、午後6時には「夕焼小焼」のメロディーが流れます。昔から変わらないメロディーを耳にすると、とても安心します。盛岡市に住んでいたときも、「大槌サウンドスケープ配信」を通して、幾度となく昔からのメロディーを耳にしていました。確か「エーデルワイス」のメロディーだったと思うのですが、昔は午後9時にもメロディーが流れていた記憶があります。残念ながら、いつからか無くなってしまったようです。正午には、「ひょっこりひょうたん島」のメロディーが流れます。震災前の音源は流失して

しまい、現在はジャズピアニストの小曽根真さんから提供されたメロディーが流れます。

昔話だけでなく、大槌の美味しいものを紹介したいと思います。カレーや和菓子等美味しいものは色々ありますが、なんといっても大槌北小福幸きらり商店街という仮設商店街にある「めん八喜（ぱっき）」さんの豚汁ラーメンは、ボリュームもあり最高です。あいにく、これから迎えるのは暑い夏ですが、食べ終わった頃にはとても体が温まりますので、寒い時期は特におすすめです。中細の縮れ麺で、野菜たっぷりの味噌味です。同じ味噌味でも、味噌ラーメンとは異なります（でも、味噌ラーメンとの違いが上手く説明出来ません）。

現在、国際沿岸海洋研究センターでは、建物の移転新築が予定されています。微力ではありますが、尽力する所存です。皆さまにおかれましても、引続きご支援いただきますようお願い申し上げます。



これが、「めん八喜」さんの豚汁ラーメンです。

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）